

「緋牡丹博徒」シリーズ

六作品
一挙上映!!

名作探求シリーズ Part 3

緋牡丹博徒

シリーズ第一作・ニュープリント上映! 主演藤純子

九州熊本で一家を構える博徒矢野仙蔵は、ある日何者かに闇討ちにされ死んでしまった。残された人娘竜子は、家を解散、犯人の残した唯一の手がかりの財布を懐に、渡世の中で親の仇を討とうと旅に出た...



60年代

に全盛を誇ったいわゆる

東映やくざ映画において、鶴田浩二、高倉健

に並ぶスター藤純子の主演シリーズ。女ながらのやくざ渡世

の掟を守り、義侠心と人情にあついやくざであり、しかし、女としての情はおさえ、

激しい殺しあいと身をさらすという設定。着物姿の美しい藤純子の情感豊かな表情と演技や、

きりとした身のこなし、男舞のような殺陣師場面が、お竜を魅力的な人物とした。

時代は明治中期の話とされ、一作ごとに舞台となる土地が変わる。お竜の義兄弟として

若山富三郎演ずる熊虎親分が毎回ユーモラスに登場、場を盛り上げ、鶴田浩二、高倉健、

菅原文太らスターが交互に共演するも魅力のひとつ。映画史上に残る名場面はまさに“美”

そのもの。ご堪能下さい。

上映日程

作品	監督	脚本	共演	時間・分	日程
★68「緋牡丹博徒」	山下耕作	鈴木則文	高倉 健	98	3/25～4/7
68「緋牡丹博徒・一宿一飯」	鈴木則文	野上龍夫 鈴木則文	鶴田浩二	95	4/8～4/14
★69「緋牡丹博徒・花札勝負」	加藤 泰	鈴木則文 鳥居元宏	高倉 健	98	4/15～4/21
69「緋牡丹博徒・二代目襲名」	小沢茂弘	鈴木則文	高倉 健	95	4/22～4/28
69「緋牡丹博徒・鉄火場列伝」	山下耕作	笠原和夫	鶴田浩二	110	4/29～5/5
70「緋牡丹博徒・お竜参上」	加藤 泰	鈴木則文 加藤 泰	菅原文太	100	5/6～5/12

3月25日(土)よりレイトショー 夜8:40より一回上映 (日曜除く連日)

料金1200円・女性1000円(連日)・半券持参の方1000円

★印はニュープリント、他は製作されてかなりの年月が経過しております、お見苦しい点は予め御了承下さいませ。

銀座三越先・歌舞伎座手前

銀座シネパトス

TEL 03-3561-4660

東宝'60年代映画の七人の“サムライ”

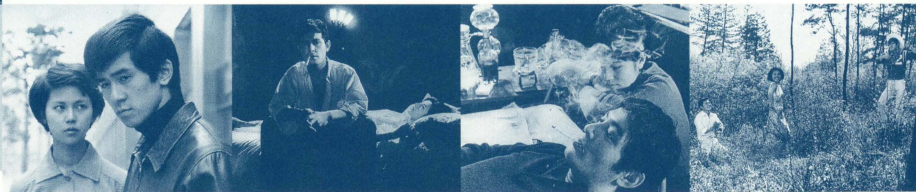
黒澤明を
超えて

名作探求シリーズ Part 4

60年代に活躍を続けた東宝の監督たちは、何らかの形で黒澤明の強大な影響のもとにいた。というより東宝の砧撮影所(現東宝スタジオ)そのものが、黒澤明という一人の監督によって強固なる規範を植え付けられていたと言えようか。それは具体的な何かということではない。実体の伴わない表現総体の磁力のようなもの。撮影所と監督たちは、この磁力の只中に位置づけられたと言える。松竹ヌーヴェルバーグ派が戦略的に前世代を否定的に捉えようとしたのに対して、60年代の東宝の監督たちは、前世代の象徴たる黒澤映画の規範の中でもがき苦しんだことは想像に難くない。今回上映される10作品をそれぞれ演出した7人の監督たちは、様々なジャンルの中でいかにそうした規範と“闘い”えたのか。じっくり観ても損はあるまい。(映画ジャーナリスト 大高宏雄)



作品	監督	時間・分	出演	日程	年
若い狼	恩地日出夫	84	夏木陽介・星由里子	5/13(土)~16(火)	61
素晴らしき悪女	恩地日出夫	89	団令子・久保明	5/17(水)~19(金)	63
自動車泥棒	和田嘉訓	99	安岡力也・寺田農	5/20(土)~23(火)	64
太陽は呼んでいる	須川栄三	92	加山雄三・藤山陽子	5/24(水)~26(金)	63
肉体の学校	木下亮	91	岸田今日子・山崎努	5/27(土)~30(火)	65
首	森谷司郎	100	小林桂樹・神山繁	5/31(水)~6/2(金)	68
赤頭巾ちゃん 気をつけて	森谷司郎	89	森和代・岡田裕介	6/3(土)~6(火)	70
青い野獣	堀川弘通	96	仲代達矢・吉村実子	6/7(水)~9(金)	60
最後の審判	堀川弘通	96	仲代達矢・司葉子	6/10(土)~13(火)	65
俺たちの荒野	出目昌伸	91	黒沢年男・酒井和歌子	6/14(水)~16(金)	69



〈七人のサムライ〉の横顔

恩地日出夫：絵空ごとの多い青春映画のジャンルで独特の位置を築く。20代の監督デビューだが、決して順風満帆というわけではなく、会社企画との間で揺れ動いた。「あこがれ」「めぐりあい」にはいまだに熱狂的ファンが多い。

和田嘉訓：黒澤明、稲垣浩らに助監督として師事。第1作目「自動車泥棒」は、手持ちカメラを使って子供たちのたまたかなエネルギーを捉えたり、シュルレアリスティック手法をもちいたりして新人らしい「既成映画への“反逆”を試みる。

須川栄三：助監督として成瀬巳喜男らにつく。2作目となる仲代主演の「野獣死すべし」がとくに有名だが、今回上映の「太陽は呼んでいる」も捨て難い作品。瞬間的に描かれる藤山陽子の美しさに驚嘆。他に「大人には分からない」「僕たちの失敗」など。奇しくも黒澤明と同じく98年に死去した。

木下亮：東宝映画の次世代をになう監督として期待される。同期に森谷司郎、恩地日出夫がいる。「男嫌い」で映画的オリジナリティを出そうと種々の実験を試み、シャープな画面構成とともにそのユニークさが買われる。「肉体の学校」は三島由起夫の原作。

森谷司郎：成瀬巳喜男の几帳面な撮影態度に職業的な人間の姿を見るとともに、黒澤組の助監督として完全主義、タナミックな演出を学ぶ。代表作「首」で白黒、スタンダードな画面に確かな演出力を見せ、「赤頭巾ちゃん気をつけて」では微妙に揺れ動く男女の行動と心理を見事に描いた。「日本沈没」「八甲田山」などの大作でも知られるが、84年死去した。

堀川弘通：終始黒澤明のものとて演出を学び、黒澤の完全主義の厳しさを肌で身につける。ただし、師匠の影響はそう受けていないと強気な一面も。安定した演出力で様々なジャンルに挑戦。ミステリーの「白と黒」は、橋本忍のオリジナル脚本の見事な映画化だった。「黒い画集 あるサラリーマンの証言」「裸の大将」などが有名。

出目昌伸：内藤洋子主「演'年ごろ」で監督デビュー。恩師黒澤とは逆に、女性を描くのが得意。この時代の多くの監督がそうであるように青春映画でデビューしたが、従来の“清く正しい”東宝カラーを打ち破ろうとの意欲十分で、ユニークな作品が多い。近年は東映に活動の拠点を移している。

5月13日(土)よりレイトショー 夜8:40より一回上映

当日料金1000円均一 (日曜除く連日)

■上映作品はいずれも制作されてからかなりの年月が経過し、一部お見苦しい点があるかと思ひます。予めご了承下さい。

銀座三越先・歌舞伎座手前

銀座シネパトス

TEL 03-3561-4660